

港区立麻布小学校
令和3年度 授業改善推進プラン

1 区学力調査の結果を踏まえた課題

国語	<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語、修飾語等、言葉の分類についての理解が不十分である。 ・段落の役割や主張と事例の関係を捉えながら読むことができていない。 ・学年が上がるにつれ、正確に読むことが課題である。 ・指定された分量で文章を書くことや段落、接続語を理解しながら書くことが不十分である。 ・文章を読むことや把握することに時間がかかる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・八方位など、地図帳を活用する上での基礎事項が十分に身につけていない。 ・資料から適切な情報を読み取り、それらをもとに判断をしたり、自分の考えを表現したりできていない。 ・学習用語など、前学年までの学習で押さえ切れていない部分がある。 ・年表等の資料を読み取り、そこから判断したり自分の考えをもったりする力が不十分である。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生は「図形」の単元につまずきが、習熟の遅れている児童グループに多く見られる。 ・4年生は「余りのあるわり算」の単元で余りの書き忘れのケアレスミスが習熟度に関係なく見られる。 ・5年生は、領域別に見ると、特に四捨五入して概算を求める計算に課題がある。 ・6年生は、領域別に見ると、小数と分数の混合計算でミスが習熟度の遅れている児童に多く見られた。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・風やゴムの力、音のせいしつ、物の重さなど、比較的实验に重点を置いた学習において理解が不十分である。 ・植物の発芽と成長、魚のたんじょうなど、昨年度コロナ対応で臨時休校や分散登校中の指導範囲が理解不十分になっている。

2 各教科の具体的な授業改善

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉に着目して、正確に読む力 ・目的意識をもって文章を書く力 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で指導用語や国語科年間指導計画、系統指導表を作成し、「読み方」を指導する。 ・日常活動で、速読や辞書引きなどを意図的・計画的に取り入れ、文章を速く正確に読む練習をする。 ・ICTを活用して、日常的に日記やブログなど、目的をもって書かせるようにし、「書くこと」のハードルを下げしていく。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや地図帳、年表などの資料から情報を読み取り力、活用する力 ・読み取ったことを元に、事象の起きた理由や背景などについて自分の考えをもつ力 	<ul style="list-style-type: none"> ・変化の大きな所や出典など、年表や資料の読み方、着目すべきポイントなどについて、年間を通して都度指導を続けていく。 ・日常活動として、地図帳を用いる機会を増やす。そのためにも、カリキュラムマネジメントの視点で、どの教科でも地図帳を使用できるようにする。 ・年表から目的に沿った情報を読み取らせるために「何を読み取らせるのか」教師側の視点をはっきりさせる。また、それらの背景を想起させるために、補助資料を準備したり、調べられたりするようにする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的に考える資質、能力 ・数学的な見方、考え方 ・自力で問題解決できる能力 ・協働して問題解決できる能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生では、定規や三角定規を用いて作図問題に力を入れ、図形対策を行っていく。 ・4年生では、筆算の仕方を再確認して、東京ベーシックドリルを活用しながら計算能力を高めていく。 ・5年生では、習熟度の進んでいる児童にも位取りのケアレスミスがみられたので、東京ベーシックドリルを活用しながら計算能力を高めていく。 ・6年生では、積の小数点の位置に気を付けることを確認して、東京ベーシックドリルを活用して計算の習熟を図っていく。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験を中心とした探求の過程を通じて課題を解決する力 ・生物の体のつくりと働き、生物と環境との関わりについて追及する中で、それらの働きや関わりについて、より妥当な考えをつくり出す力 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生は、理科の学習が初めてであり、より丁寧に実験を通じての学習の仕方を指導していく。 ・コロナ禍において、本来学ぶべき課程を学習時期のズレの影響などもあり、時期に合わせた学習ができていない。植物の成長や魚のたんじょうなどは、生き物を相手にしているため、どうしても学習するのに適した時期などがあり、時期がズレると体験型の学習ができなくなってしまうので時期を合わせた学習ができるようにする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための力 	<ul style="list-style-type: none"> ・自発的で能動的な学びをするために、試行、予測、工夫、振り返りを繰り返す学習形態にする。 ・学習したことを日常生活に延長するために、他教科、行間の時間等に既習事項を想起させるような働きかけをする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造などとの関わりについての理解力と、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能 ・音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや、曲や演奏のよきなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が互いに他者意識を持ち、相手の取り組みや演奏・歌唱に関心をもたせる。 ・技術に合った無理のない教材を工夫して児童が楽しめるようにする。 ・丁寧な発声や演奏ができるように、まずは、自分の出した音に耳を傾ける習慣を身に付けさせる。 ・基礎基本がしっかりと身に付くように一人ずつ丁寧な指導を心がける。その基礎的な技術を生かした発展的な教材で児童の意欲を引き出す。

図工	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な視点についての自分の感覚や行為を通して理解する力 ・造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、作品などに対する自分の見方や感じ方を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な視点の提示の仕方を工夫する。児童の表現から拾い上げ、造形的な視点に沿った価値づけをしたり、導入時に用語を示し、意識した活動を促したりする。 ・自分の表現を具体的に振り返ることができるワークシートを工夫する。 ・友達の表現、美術作品の提示の仕方を工夫する。

家庭	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の自立の基礎として必要な衣食住についての理解と技能 ・生活課題について自分の生活経験と関連付け、様々な解決方法を構想する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、本来学ぶべき技術が調理実習を通して学べない。⇒体験ができなくても教師がデモンストレーションを見せたり、保護者の方とも連携をとり学校で学んだことを家庭で実践してもらえたりするような環境を作る。三密を防ぐ形で実施できる方法で実習を行う。

体育	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全についての理解、基本的な動きや技能 ・運動や健康についての自己の課題を見つけ、その解決に向けて思考し判断し、他者に伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、一部活動が制限されている運動もあるが、様々な運動遊びを体育の時間に取り入れ、多様な運動を経験させることで、技能面・体力面ともに向上を目指す。 ・安全に配慮し、個別で指導できる時間を確保することで、技能面に苦手や偏りのある児童の技能向上を目指す。

国際	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を使う実践力と、国際コミュニケーションの基礎的な力 ・外国の文化と日本の文化を比較し、それぞれの特徴を理解したうえで尊重する態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・NT とカリキュラムや流れの打ち合わせが出来るよう、連絡の体制を整える。 ・ゲーム等を取り入れ、活動内容の中で自然に英単語や簡単な文型の発話回数を増やし、自信をもたせるようにする。 ・授業の中で、外国の文化を知る機会を増やしていく。

道徳	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値を自分事として受け止め、自己の生き方についての考えを深め、よりよく生きようとする意欲や実践しようとする資質・能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材や課題を自分事として捉え、自分だったらどうするかを考えたり、普段の行動を振り返り実行していこうとしたりする意識を高めることができるようにする。 ・価値項目を吟味し、児童が自分事としてとらえることができる学習課題を考える。また、児童が興味関心をもつことができる資料提示の仕方（紙芝居、パネルシアター、ICT 機器の活用など）を工夫する。 ・道徳の時間だけでなく、他教科、行事等とも関連付けながら指導し、道徳的心情を育てていく。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	学級活動を通して望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりのために、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育成する力	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあるが、よりよい学級づくりのための話し合う議題を提案できる環境、手段を整え、児童が必然性をもって主体的に活動に関われるようにする。 ・全ての児童が目的を理解し、自分の役割を意識しながら活動に積極的に取り組めるようにする。どのように活動したらよいか分からない児童には具体的な手立てを示す。 ・毎回振り返りを行うことで、より良い活動を見出し、次回に生かせるようにする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を適切に設定し、その課題をどのように追究し、まとめていくのかを丁寧に指導していく。また、適切な課題、調べ方、まとめ方のモデルを複数提示して、支援していく。 ・グループ活動を設定し、児童相互が学び合うことができるようにする。また、自ら課題に気付くという機会を増やしていく。